

ベンチャー研究の研究潮流を読み解く

ー計量書誌分析を用いたシステムティックレビューー

坂井 貴之 早稲田大学大学院商学研究科 博士課程 *責任著者
井上 達彦 早稲田大学商学学院

1. はじめに

ベンチャー企業の創出は、新規雇用の創出 (Audretsch & Thurik, 2001)、新産業の創出 (Schumpeter, 2013)、イノベーションの促進 (McKelvie et al., 2018)、社会的・環境的課題 (Williams & Shepherd, 2016; York et al., 2016) の解決をもたらす重要な要因とされている。そのため、ベンチャーに関する研究は、マネジメント研究の中心的テーマである組織や事業の創造とその出現についての理解を深められる大きな可能性がある。

その一方で、Shook et al. (2003)および、Shepherd et al. (2021)によるレビューでは、ベンチャー研究には2つの課題があると指摘されている。第一に、ベンチャー研究は企業が生まれて間もないうちに企業にアプローチする必要があるため、サンプルの調達に困難な点が挙げられる。第二に、ベンチャー研究は大企業を対象とした伝統的なリサーチデザインが適用しにくい。その結果、ベンチャー研究には新しい尺度やリサーチデザインを導入する必要があり、多様なサンプルと手法が用いられる傾向がある。

このような背景から、Shepherd et al. (2021) はベンチャー研究において理論的な蓄積が不十分となり、研究が分断されて潮流をなさなくなるという問題があると指摘する。しかし、異なる方法やサンプルによる検証の重要性も無視できず、多様なリサーチデザインの導入は、研究の蓄積を阻害するものではない可能性がある。また、Shook et al. (2003)と Shepherd et al. (2021)のレビューは一定期間に限られた文献群のナラティブレビューであり、ベンチャー研究の潮流が時代とともにどのように変遷してきたか、分断があるのか否かを検証するためには、より系統的な分析が求められる。

そこで、本研究では学術論文の書誌情報の1つである「引用文献情報」を活用し、時代ごとのベンチャー研究の計量書誌分析を行う。引用文献は、論文が依拠する中心概念の基盤や関連する現象を示す指標であり、共通の文献を引用する論文間には類似性が見出せるため、論文のネットワークを分析することで、研究分野における中心的なテーマやトピックを体系的に把握できる。

本研究では、2000年から2024年の期間に刊行されたベンチャー研究を対象に、引用文献のネットワークの時系列的变化を追うことで、ベンチャー研究の潮流の変遷と分断されているのか否かを検証した。

分析の結果、主要テーマ「イノベーション」「起業家精神」「制度理論」「起業家志向」が全期間で研究の基盤として機能していることが確認され、分断されることなく理論的な潮

流が形成されていることが示唆された。一方で、近年の研究ではクラウドファンディングやエコシステムなどの新しいテーマが細分化されつつも注目を集めていることがわかった。

2. データの収集と分析方法

(1) 書誌情報の収集

本研究では、学術文献データベースの1つである Web of Science (WoS) を用いて 2024 年 8 月 20 日に収集した書誌情報を使用する。文献の選定基準は以下の通りである。

(1) "Entrepreneurial Firm(s)", "start-up(s)", "venture(s)", "new venture(s)", "new business(s)", "new firm", "early stage", "Entrepreneur(s)", "Entrepreneurship"を「論文タイトル」「アブストラクト」「キーワード」のいずれかに含む。(2) WoS の分野で、"Business"もしくは"Management"に属する。(3) 論文タイプが"原著論文 (Article)、総説 (Review Article)、早期公開 (Early Access)、会議録 (Proceeding Paper) のいずれかであり、(4) 英語で記述された論文である。

刊行時期については、2000 年から現在までに刊行されたすべての文献を対象とした。また、質の高い学術研究を活用するため、本研究では Academic Journal Guide (AJG) の 2021 年版を参照し、AJG において 4*のランクが付与されたトップジャーナル 43 誌と、起業系トップジャーナル 3 誌 (Journal of Business Venturing, Entrepreneurship Theory and Practice, Strategic Entrepreneurship Journal) に掲載された論文に絞り込んだ。

上述の基準に基づいてデータベース検索を実行した結果、2024 年 8 月 20 日時点で 2000 年から 2024 年にかけて発行された 6,278 本の文献が抽出された。その後、被引用件数が年平均 15 回以上あることを基準に再度絞り込みを行い、最終的な調査対象は 1,090 本の文献となった。これらの文献は、WoS から取得可能なすべての書誌情報を含めて、タブ区切りファイル形式(*.txt)形式で保存した。

(2) データの分析

本研究では、Zupic and Čater (2015)のレビュー手法を参照し、計量書誌分析を用いてベンチャー研究をレビューする。この分析手法は、出版された学術論文を分類し、類似のトピックを扱う文献間のつながりを特定することを目的としている。計量書誌学的手法を用いることで、ベンチャー研究の研究潮流を探ることができ、主要なトピックに関する学術研究のつながりを視覚的に表現することができる。さらに、計量書誌学的研究は、対象とするトピック内のネットワークを特定するために使用することができ、研究分野の概観を理解する手段ともなる (Donthu et al., 2021)。本研究では、計量書誌分析に VOSViewer を使用する。このソフトウェアでは主に以下の 3 つの分析を行うことができる。

共引用分析(Co-citation) : 他の文献による引用(被引用情報)を用いて、同時に引用される程度に基づき、文献の関連性を探ることができる。また、他の著者による引用によって、最も関連性が高まった主な研究のネットワークを作成することもできる。

書誌結合 (Bibliographic coupling) : 文献が引用した文献(引用文献情報)を用いて、依拠

する概念や、焦点を当てる現象、知識基盤に基づく文献の関連性を探ることができる。

キーワードの共起性分析：分析対象のテーマにおける主要なキーワードを特定する。この分析では、論文の被引用回数に応じた単語密度のマッピングも可能である。これは、関連するテーマを特定するために使用される。

これら3つのアプローチは、結果を視覚的に表現することで、分析されたネットワーク内の文献のつながりを理解するのに役立つ。本研究では、特に引用文献情報に基づく「書誌結合分析」に焦点を当て、計量書誌分析を行う。

本研究の目的に沿って、分析は2段階で行った。第1段階では、ベンチャー研究全体の構造を探るため、分析対象とした1,090本の文献すべてを含め、書誌結合ネットワークを描いた。このネットワークは文献間で共通する引用文献の数によって重み付けされ、文献間の距離や関連性の強さを測定し、研究をクラスター分けすることができる。第2段階では、研究潮流の変化を特定するために、2000-2008年、2009-2016年、2017年-2024年の3つの年代に切り分けて、書誌結合ネットワークを描き、分析を行った。

3. 第1段階の分析結果

(1) サンプルデータの概要

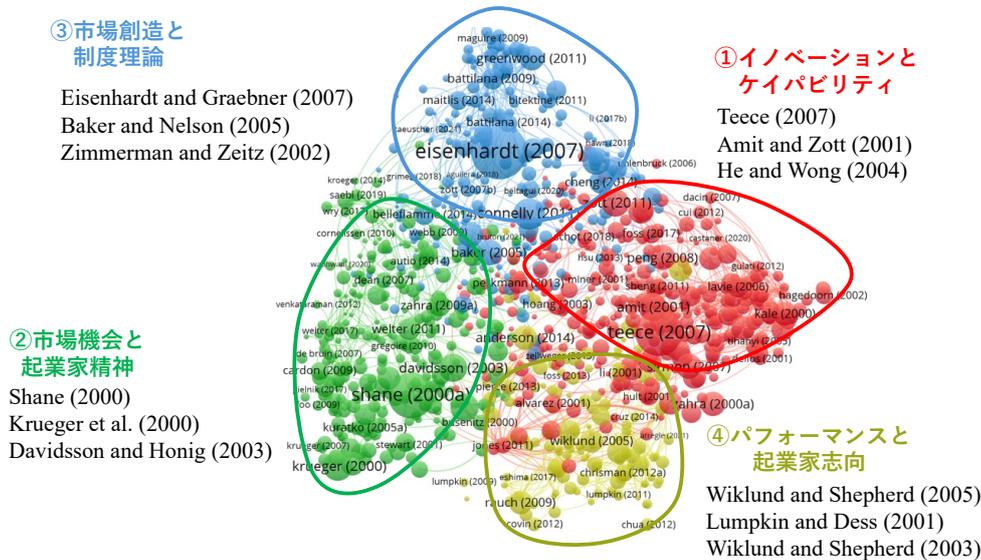
ベンチャー研究は年々注目を集めており、6,278本の論文において、1年あたりの出版物数では、2000年の84本から、2023年には464本にまで増加している。最も多くの文献が刊行されたのは2023年であり、この年の出版物は全体の約7.3%にあたる464本である。

さらに、この分野の研究の発展は、出版物数の増加のみならず、被引用件数の増加傾向にも現れている。6,278本の論文において、合計761,831件の被引用件数が記録されている。年間の被引用件数は2000年が45件であったのに対して、2009年には1万件を超え、2023年には82,498件に達している。出版物数の増加を考慮に入れても、この研究分野に対する研究者の関心が高まっていることを示している。

(2) 書誌結合によって示されたネットワーク

第1段階として、対象となった文献全体を分析する。その結果、共通の引用文献数が閾値に満たないものが90本含まれていたため、1,000本の文献の書誌結合ネットワークが得られた(図1)。書誌結合ネットワークにおける文献間のつながり(Links)は合計444,490本で、共通して引用されている文献の数(Total link strength)は3,239,994本であった。そして、各文献に共通する引用文献に基づいて分類された4つのクラスターが明らかになった。各クラスターは含まれる論文の本数順に①(赤)、②(緑)、③(青)、④(黄)として図に表されている。つまり、もっとも多くの文献が所属しているのが図の右側に位置する①(赤)のクラスターだということがわかる。分析結果から、各クラスターの被引用件数の多い代表的な文献を抽出し、主要テーマを特定した。

図1 2000-2024年における書誌結合ネットワークとクラスター



クラスター①(赤)では被引用件数が多い文献として Teece (2007)、Amit and Zott (2001)、He and Wong (2004)の3本が挙げられる。このクラスターにおける主要なテーマは、「イノベーションとケイパビリティ」だと言える。これらの論文は、ベンチャー企業が不確実で動的な環境下でイノベーションを創出し、競争優位を持続するための戦略として、ダイナミック・ケイパビリティや両利き性、ビジネスモデルに関する理論的概念を中心に議論を展開している。また、このクラスターには、ベンチャー企業の市場機会の選択 (Gruber et al., 2008) から出口戦略の選択 (Arora et al., 2021) に至るまで、多様なタイミングで企業が変化する市場に適応する能力について研究した多様な文献が含まれている。

クラスター②(緑)で被引用件数が多い文献は Shane and Venkataraman (2000)、Krueger et al. (2000)、Davidsson and Honig (2003)であった。このクラスターの焦点は「市場機会と起業家精神」であり、起業家精神を説明するために、多角的なアプローチが取られている。文献群は、起業家の意図、社会的資本、技術革新、不確実性などがどのように相互作用し、起業家活動を形成しているかを探求している。中には、トップマネジメントチーム (Beckman & Burton, 2008) や、資源提供者 (Fisher & Neubert, 2023) の視点から起業における意思決定と社会的資本の相互作用を調査している文献もある。

クラスター③(青)の代表的な文献には Eisenhardt and Graebner (2007)、Baker and Nelson (2005)、Zimmerman and Zeitz (2002)が挙げられる。このクラスターでは、「市場創造と制度理論」に焦点を当てており、正当性の獲得、ストーリーテリング、フレーミングなど、制度理論の視点からアプローチしている。起業家は制度的環境に挑みつつ、限られた資源を活用し、正当性を構築して成功を目指す。その過程として、アイデンティティの形成と調整 (Snihur et al., 2022; Wry et al., 2014; Zimmerman & Zeitz, 2002) や、市場環境や規制の不確実性への対処 (Fisher et al., 2016; Gao & McDonald, 2022)、ベンチャー企業への資源提供者 (外部のオー

ディエンス) の視点 (McDonald & Gao, 2019; Santos & Eisenhardt, 2009) について、調査が行われている。

クラスター④(黄)では被引用件数が多い文献として Wiklund and Shepherd (2005)、Lumpkin and Dess (2001)、Wiklund and Shepherd (2003)が挙げられる。このクラスターにおける主要なテーマは「起業家志向 (Entrepreneurial Orientation) とパフォーマンス」である。文献群は起業家志向が企業のパフォーマンスに与える影響について、環境要因 (Li & Atuahene-Gima, 2001) や資源 (Wiklund & Shepherd, 2003)、社会関係資本 (Stam & Elfring, 2008) との相互作用を考慮した構成論的アプローチで調査している。

以上の分析結果から、2000年から2024年にかけてのベンチャー研究は、主に4つのテーマと理論的概念に基づいて蓄積されていることが示された。具体的には、①ダイナミック・ケイパビリティ、②起業家精神、③制度理論、④起業家志向の4つの理論的概念を中心としていると考えられる。

4. 第2段階の分析結果

第1段階の分析で明らかになったベンチャー研究は分断されており、時系列ごとに異なるテーマが用いられているのだろうか。第2段階では、分析対象を3つの期間に区切って分析し、共通したテーマが期間をまたがって見出せるか否かを検証することによって、Shepherd et al. (2021)が述べるようにベンチャー研究が分断されているのかを調査する。

(1) 2000-2008年の分析結果

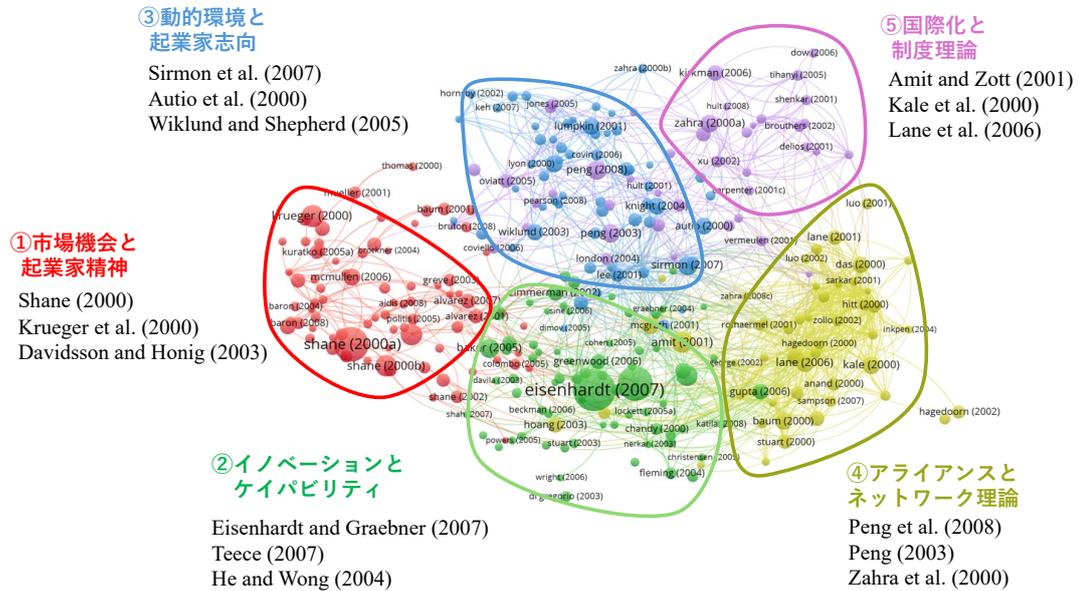
まず、初期のベンチャー研究の書誌結合分析の結果を示す。2000年から2008年に刊行されたサンプル内の文献は301本であり、図2に示された書誌結合ネットワークは、各文献に共通する引用文献に基づいて分類された5つのクラスターが示している。

クラスター①(赤)において被引用件数が多い文献は、Shane and Venkataraman (2000)、Krueger et al. (2000)、Davidsson and Honig (2003)の3本である。このクラスターは、「市場機会と起業家精神」に焦点を当てている。全期間のベンチャー研究の構造における「市場機会と起業家精神」のクラスターを構成している文献がこの時代から蓄積されており、中心的なテーマの1つであったことがわかる。

次に、クラスター②(緑)で被引用件数が多いのは Eisenhardt and Graebner (2007)、Teece (2007)、He and Wong (2004)であった。このクラスターの焦点は、「イノベーションとケイパビリティ」であり、初期の研究からこのテーマに関する研究が蓄積されてきたことが示されている。

クラスター③(青)の代表的な文献には Sirmon et al. (2007)、Autio et al. (2000)、Wiklund and Shepherd (2005)が挙げられる。このクラスターでは「動的環境と起業家志向」が主要なテーマとなっており、起業家志向を中心的な理論的概念として、国際化をはじめとした動的な環境への対応や資源管理について調査している。

図2 2000-2008年の書誌結合ネットワークとクラスター



クラスター④（黄）において被引用件数が多い文献は、Amit and Zott (2001)、Kale et al. (2000)、Lane et al. (2006)である。このクラスターは「アライアンスとネットワーク理論」を主要テーマとしており、アライアンスをはじめとした取引関係やソーシャルキャピタルに焦点を当てた、ネットワーク理論に基づく研究が主である。

クラスター⑤（紫）では、Peng et al. (2008)、Peng (2003)、Zahra et al. (2000)が代表的な文献として挙げられ、「国際化と制度理論」に焦点を当てている。このクラスターの文献は、制度的・文化的要因が企業の国際戦略に与える影響を探り、異文化環境における企業行動を明らかにしている。

以上の分析結果から、2000年から2008年におけるベンチャー研究は、5つのテーマと理論的概念に基づいて蓄積されていることが示された。

(2) 2009-2016年の分析

次に、2009年から2016年に刊行された文献の書誌結合分析の結果を示す。この期間に刊行されたサンプル内の論文は429本であり、図3に示された書誌結合ネットワークから6つのクラスターが得られた。

クラスター①において、被引用件数が多かった文献は Connelly et al. (2011)、Zott et al. (2011)、Aguinis and Glavas (2012)である。このクラスターは、「イノベーションと組織構造」に焦点を当てており、ビジネスモデルやCSRなどのテーマを通じて、ベンチャー企業がどのようにイノベーションを創出するかを、組織構造やステークホルダーとの取引の観点から調査している。

クラスター②（緑）では、Liñán and Chen (2009)、Cardon et al. (2009)、Unger et al. (2011)が

被引用件数の多い文献として挙げられる。このクラスターの焦点は「起業意図と人的資本理論」であり、人的資本理論や計画行動理論に基づいて、人的・心理的要因が起業意図や起業行動に与える影響を調査している。

クラスター③（青）の代表的な文献には Greenwood et al. (2011)、Battilana et al. (2009)、Pache and Santos (2013)が挙げられる。このクラスターでは「制度的複雑性と制度理論」が主要なテーマであり、企業が異なる制度的論理に直面した際に、外部環境からの正当性をどのように維持するかに焦点を当てている。

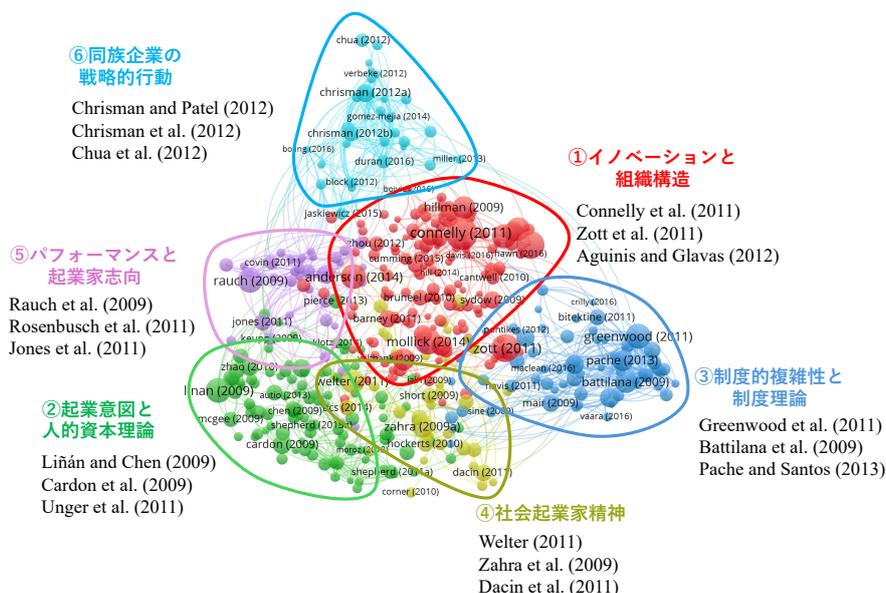
クラスター④（黄）において被引用件数が多い文献は、Welter (2011)、Zahra et al. (2009)、Dacin et al. (2011)であった。クラスター④では「社会起業家精神」が主要なテーマだと言える。このクラスターに含まれる文献は初期の起業家精神を基盤とした文献とは異なり、個人ではなく、歴史的・社会的・制度的な背景や環境と起業家精神との相互作用を探っている。

クラスター⑤（紫）では、Rauch et al. (2009)、Rosenbusch et al. (2011)、Jones et al. (2011)が代表的な文献として挙げられる。このクラスターの焦点は「起業家志向とパフォーマンス」であり、起業家志向性やイノベーション活動が企業パフォーマンスに与える影響を調査する文献が中心的である。

クラスター⑥（水色）において、被引用件数が多い文献は Chrisman and Patel (2012)、Chrisman et al. (2012)、Chua et al. (2012)である。このクラスターは「同族企業の戦略的行動」に焦点を当てており、同族企業が持つ特徴が研究開発投資や目標設定といった戦略的行動にどのように影響を与えるかを調査している。

以上の分析結果から、2009年から2016年におけるベンチャー研究は6つのテーマと理論的概念に基づいて蓄積されていることが示された。

図3 2009-2016年の書誌結合ネットワークとクラスター



(3) 2017-2024 年の分析

最後に、2017-2024 年に刊行された文献の書誌結合分析の結果を以下に示す。この期間に刊行されたサンプル内の論文は 270 本であり、図 4 に示された書誌結合ネットワークに基づき、6つのクラスターが得られた。

クラスター①では Foss and Saebi (2017)、Schot and Steinmueller (2018)、Massa et al. (2017) が最も多く引用されている。このクラスターは、「イノベーションとビジネスモデル」に焦点を当てており、企業が変化する市場環境に対応するためのイノベーションの促進やビジネスモデルの進化について調査している。

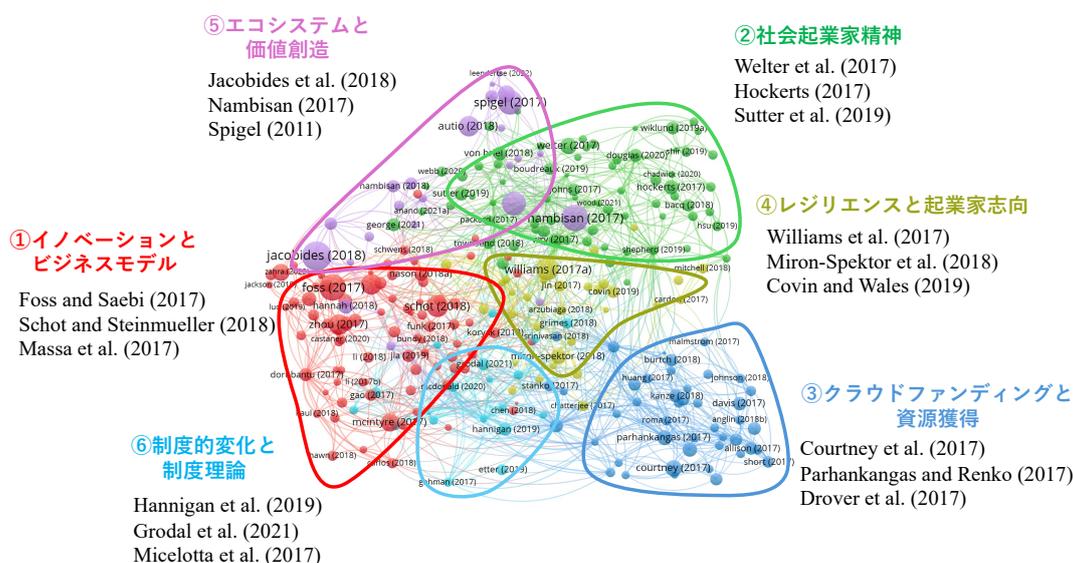
クラスター②（緑）では、Welter et al. (2017)、Hockerts (2017)、Sutter et al. (2019) が多く引用されている。このクラスターの焦点は「社会起業家精神」であり、2009-2016 年に形成された社会起業家精神に関する研究を引き継ぎ、起業家活動が利益の追求に留まらず、いかに社会的・経済的問題の解決に寄与するかに注目している。

クラスター③（青）では Courtney et al. (2017)、Parhankangas and Renko (2017)、Drover et al. (2017) が代表的な文献であり、「クラウドファンディングと資源獲得」を主要なテーマとしている。これらの文献は、シグナリング理論に基づき、主にクラウドファンディングプラットフォームにおける起業家の資金調達戦略を調査している。

クラスター④（黄）では Williams et al. (2017)、Miron-Spektor et al. (2018)、Covin and Wales (2019) が多く引用され、「レジリエンスと起業家志向」をテーマにしている。このクラスターに含まれる文献は、危機的状況や緊張状態における組織や個人の対応に焦点を当てている。

クラスター⑤（紫）の代表的な文献は、Jacobides et al. (2018)、Nambisan (2017)、Spigel (2011) であり、「エコシステムと価値創造」に焦点を当てている。特に、デジタル・エコシステムが企業の価値創造プロセスや起業家精神に与える影響を探る研究が中心的である。

図 4 2017-2024 年の書誌結合ネットワークとクラスター



クラスター⑥（水色）では、Hannigan et al. (2019)、Grodal et al. (2021)、Micelotta et al. (2017)が多く引用され、「制度的変化と制度理論」に関する研究が行われている。このクラスターの文献は、制度論を基盤理論とし、ベンチャー企業が不確実性の高い環境や制度の変化にどのように適応、対処するかを主に探求している。

以上の分析から、2017年から2024年におけるベンチャー研究は、6つのテーマと理論的概念に基づいて蓄積されていることが明らかとなった。

5. ディスカッション

本研究は、ベンチャー研究における研究潮流の一貫性と分断の有無を時系列的に明らかにすることを目的として、2000年から2024年の期間に刊行されたベンチャー研究を対象に、2段階の計量書誌分析によるシステムティックレビューを行った。分析から得られた4つ期間のクラスターを表1に整理し、年代ごとの研究テーマの変遷を検証した。表1に示したクラスターは含まれる文献数が多い順に①～⑥の番号を振っており、若い番号のクラスターが各年代で注目されていたテーマであったと考えられる。

全期間を通じて共通する主要なテーマは「イノベーション」「起業家精神」「制度理論」「起業家志向」の4つであり、これらがベンチャー研究における中心的概念として一貫して用いられていることが明らかとなった。

まず、イノベーションは全期間で最も多くの研究が行われており、年代を問わず中心的テーマとして扱われていることが確認された。初期の研究では企業のイノベーション能力に重点が置かれていたが、時代の進展に伴い、組織構造やビジネスモデルにおける革新への関心が高まっている。

次に、起業家精神は2000年から2008年にかけての研究で主軸となっていたが、その後「起業意図」や「社会起業家精神」といった概念へと派生していく傾向が見られた。近年の研究では、社会・環境問題への対応や持続可能な発展への関心の高まり（Dacin et al., 2011）により、社会起業家精神が2番目に大きなクラスターを形成していることが確認された。

制度理論は初期には小規模なクラスターであったものの、国際的なビジネス環境や制度的複雑性への対応が求められるに伴い、次第に関心が高まった。特に、異なる制度的環境への適応や、技術革新に伴う制度的変化に対する戦略的対応、資源獲得のための正当性確保が注目されるようになった。

最後に、起業家志向は全期間で一貫して研究されているテーマであり、組織レベルでの行動傾向が組織成果に及ぼす影響に焦点を当てている。起業家精神が個人を起点とした新規事業や具体的行動に焦点を置くのに対し、起業家志向は行動パターンが成果に与える影響を測定するための枠組みとして活用されている。

これらのベンチャー研究の理論的概念は、表1からもわかるように、時代ごとに流行しているテーマと合わせることで、分断されることなく、潮流を残して研究を蓄積している。

表1 各期間の書誌結合ネットワークから得られたクラスター

年代	全期間	2000-2008年	2009-2016年	2017-2024年
クラスター①	イノベーションと ケイパビリティ	市場機会と 起業家精神	イノベーションと 組織構造	イノベーションと ビジネスモデル
クラスター②	市場機会と 起業家精神	イノベーションと ケイパビリティ	起業意図と 人的資本理論	社会起業家精神
クラスター③	市場創造と 制度理論	動的環境と 起業家志向	制度的複雑性と 制度理論	クラウド ファンディングと 資源獲得
クラスター④	パフォーマンスと 起業家志向	アライアンスと ネットワーク理論	社会起業家精神	レジリエンスと 起業家志向
クラスター⑤		国際化と 制度理論	パフォーマンスと 起業家志向	エコシステムと 価値創造
クラスター⑥			同族企業の 戦略的行動	制度的変化と 制度理論

これまで、多くのベンチャー研究の文献調査では、着目する現象へのリーチやリサーチデザインのみずかしさゆえに、研究潮流が分断されていると指摘されてきた (Shepherd et al., 2021)。しかし、本研究では、従来のレビューで用いられてきた限られた期間でのナラティブレビューに対して、引用文献を基にした時系列的なシステムティックレビューを行うことで、研究が分断されることなく共通の知識基盤を持つ一貫した研究潮流が形成されていることが示唆された。時代の変遷に伴いテーマの焦点が変化しているものの、主要な理論的概念が持続的に参照されており、全期間では理論に基づくクラスターに収束している。

さらに、今回の時系列的なレビューによって、理論的概念が分断されていない一方で、現象面に着目した現代の研究はクラスターの数が多く、細分化されていることが示された。例えば、2017年から2024年の期間においては、クラウドファンディングやエコシステムなど、現代の多様化した資源獲得方法やデジタル技術の発展を反映したクラスターが形成されている。これらの実務での流行を取り入れた研究群が、新たな理論的基盤をどのように築くのか、または既存の潮流にどのように貢献するのかについては、さらなる研究が必要である。

本研究では、ベンチャー研究の潮流を明らかにすることを目標としたため、個々の文献やクラスター間のつながり、あるいはテーマの変遷を主導した特定の研究まで詳細に分析するには至っていない。また、研究潮流におけるリーチや個別の理論的知識基盤の具体的内容には十分に踏み込めていない。そのため、今後はより詳細な分析を行うことが重要である。

具体的には、今後の研究では、分析対象を特定の年代やテーマに絞り、キーワード共起性分析など異なる書誌情報を用いることが望まれる。また、同一クラスター内における共通点や差異、ならびにクラスター間を繋ぐ研究について詳細に検討することで、ベンチャー研究における知識基盤のより明確な理解が可能となるだろう。

References

- Audretsch, D. B., & Thurik, A. R. (2001). What's new about the new economy? Sources of growth in the managed and entrepreneurial economies. *Industrial and Corporate Change*, 10(1), 267-315. <https://doi.org/10.1093/icc/10.1.267>
- Arora, A., Fosfuri, A., & Rønde, T. (2021). Waiting for the payday? The market for startups and the timing of entrepreneurial exit. *Management Science*, 67(3), 1453-1467. <https://doi.org/10.1287/mnsc.2020.3681>
- Beckman, C. M., & Burton, M. D. (2008). Founding the future: Path dependence in the evolution of top management teams from founding to IPO. *Organization Science*, 19(1), 3-24. <https://doi.org/10.1287/orsc.1070.0266>
- Dacin, M. T., Dacin, P. A., & Tracey, P. (2011). Social entrepreneurship: A critique and future directions. *Organization science*, 22(5), 1203-1213. <https://doi.org/10.1287/orsc.1100.0620>
- Donthu, N., Kumar, S., Mukherjee, D., Pandey, N., & Lim, W. M. (2021). How to conduct a bibliometric analysis: An overview and guidelines. *Journal of Business Research*, 133, 285-296. <https://doi.org/10.1016/j.jbusres.2021.04.070>
- Fisher, G., Kotha, S., & Lahiri, A. (2016). Changing with the times: An integrated view of identity, legitimacy, and new venture life cycles. *Academy of Management Review*, 41(3), 383-409. <https://doi.org/10.5465/amr.2013.0496>
- Fisher, G., & Neubert, E. (2023). Evaluating ventures fast and slow: Sensemaking, intuition, and deliberation in entrepreneurial resource provision decisions. *Entrepreneurship Theory and Practice*, 47(4), 1298-1326. <https://doi.org/10.1177/10422587211042501>
- Gao, C., & McDonald, R. (2022). Shaping nascent industries: Innovation strategy and regulatory uncertainty in personal genomics. *Administrative Science Quarterly*, 67(4), 915-967. <https://doi.org/10.1177/00018392211060940>
- Gruber, M., MacMillan, I. C., & Thompson, J. D. (2008). Look before you leap: Market opportunity identification in emerging technology firms. *Management Science*, 54(9), 1652-1665. <https://doi.org/10.1287/mnsc.1080.0904>
- Li, H., & Atuahene-Gima, K. (2001). Product innovation strategy and the performance of new technology ventures in China. *Academy of Management Journal*, 44(6), 1123-1134. <https://doi.org/10.5465/3069392>
- McKelvie, A., Wiklund, J., & Brattström, A. (2018). Externally acquired or internally generated? Knowledge development and perceived environmental dynamism in new venture innovation. *Entrepreneurship Theory and Practice*, 42(1), 24-46. <https://doi.org/10.1177/1042258717747056>
- McDonald, R., & Gao, C. (2019). Pivoting isn't enough? Managing strategic reorientation in new ventures. *Organization Science*, 30(6), 1289-1318. <https://doi.org/10.1287/orsc.2019.1294>
- Santos, F. M., & Eisenhardt, K. M. (2009). Constructing markets and shaping boundaries:

- Entrepreneurial power in nascent fields. *Academy of Management Journal*, 52(4), 643-671. <https://doi.org/10.5465/amj.2009.43669892>
- Shepherd, D. A., Souitaris, V., & Gruber, M. (2021). Creating new ventures: A review and research agenda. *Journal of Management*, 47(1), 11-42. <https://doi.org/10.1177/0149206319900537>
- Shook, C. L., Priem, R. L., & McGee, J. E. (2003). Venture creation and the enterprising individual: A review and synthesis. *Journal of management*, 29(3), 379-399. [https://doi-org/10.1016/S0149-2063\(03\)00016-3](https://doi-org/10.1016/S0149-2063(03)00016-3)
- Snihur, Y., Thomas, L. D., Garud, R., & Phillips, N. (2022). Entrepreneurial framing: A literature review and future research directions. *Entrepreneurship Theory and Practice*, 46(3), 578-606. <https://doi.org/10.1177/1042258717716745>
- Stam, W., & Elfring, T. (2008). Entrepreneurial orientation and new venture performance: The moderating role of intra-and extraindustry social capital. *Academy of Management Journal*, 51(1), 97-111. <https://doi.org/10.5465/amj.2008.30721531>
- Schumpeter, J. A. (2013). *Capitalism, socialism and democracy*. Routledge. <https://doi.org/10.4324/9780203202050>
- Wiklund, J., & Shepherd, D. (2003). Knowledge-based resources, entrepreneurial orientation, and the performance of small and medium-sized businesses. *Strategic management journal*, 24(13), 1307-1314. <https://doi.org/10.1002/smj.360>
- Williams, T. A., & Shepherd, D. A. (2016). Building resilience or providing sustenance: Different paths of emergent ventures in the aftermath of the Haiti earthquake. *Academy of Management Journal*, 59(6), 2069-2102. <https://doi.org/10.5465/amj.2015.0682>
- Wry, T., Lounsbury, M., & Jennings, P. D. (2014). Hybrid vigor: Securing venture capital by spanning categories in nanotechnology. *Academy of Management Journal*, 57(5), 1309-1333. <https://doi.org/10.5465/amj.2011.0588>
- York, J. G., Hargrave, T. J., & Pacheco, D. F. (2016). Converging winds: Logic hybridization in the Colorado wind energy field. *Academy of Management Journal*, 59(2), 579-610. <https://doi.org/10.5465/amj.2013.0657>
- Zimmerman, M. A., & Zeitz, G. J. (2002). Beyond survival: Achieving new venture growth by building legitimacy. *Academy of Management Review*, 27(3), 414-431. <https://doi.org/10.5465/amr.2002.7389932>
- Zupic, I., & Čater, T. (2015). Bibliometric methods in management and organization. *Organizational research methods*, 18(3), 429-472. <https://doi-org/10.1177/10944281145626>

Exploring Research Trends in Venture Studies: A Systematic Review through Bibliometric Analysis

Takayuki SAKAI *Corresponding Author
Waseda University
taka-0326@moegi.waseda.jp

Tatsuhiko INOUE
Waseda University
t-inoue@waseda.jp

Abstract: This study employs bibliometric analysis to examine the consistency and fragmentation of research trends in venture studies from 2000 to 2024. The findings reveal that four core themes—‘innovation,’ ‘entrepreneurship,’ ‘institutional theory,’ and ‘entrepreneurial orientation’—have been consistently central throughout the period. However, recent years have witnessed an increase in studies addressing emerging phenomena, such as crowdfunding and digital technologies, suggesting a trend toward thematic diversification. By tracing the chronological evolution of the knowledge base in venture research, this study highlights the enduring theoretical foundations and underscores the need for more detailed investigations into emerging trends.

Keywords: venture, start-ups, entrepreneurship, bibliometric analysis, systematic review